

# 加工用ばれいしょの収量性改善

～江別市野幌～

## 1 課題設定の背景

- (1) 野幌の作付面積は42ha（JA道央全体の6割）。
- (2) 主要品種は“トヨシロ”
- (3) H28～H30年の10a収量が基準の3000kgを下回っている。
- (4) 実態調査でわかった低収要因



- ① 病害の多発
- ② 土壌養分の乱れ（リン酸過剰 & 石灰不足）



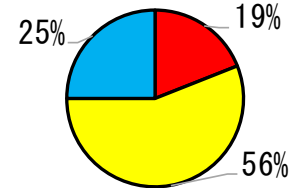
疫病発生ほ場 (H30)

ほ場のリン酸  
(野幌H30)



■ 過剰 ■ 基準値内 ■ 不足

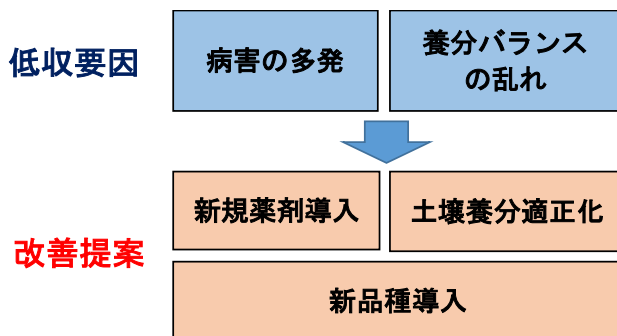
ほ場の石灰分  
(野幌H30)



■ 過剰 ■ 基準値内 ■ 不足

## 2 普及活動の内容

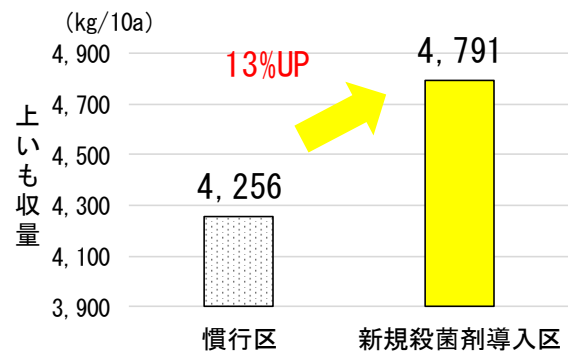
- (1) 現地講習会で農業者らと課題（下図）の共有を図った。



- (2) 新規殺菌剤A（オキサチアピプロリン+ファモキサドン）の導入効果確認



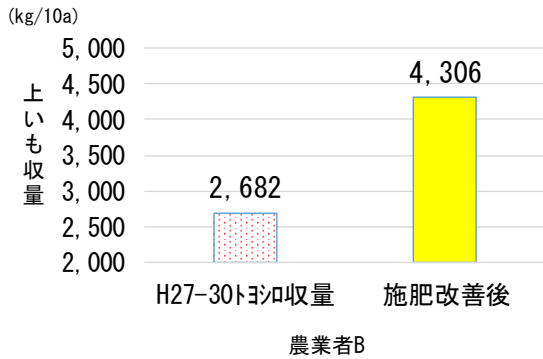
茎葉黄変期頃の試験ほの様子



農業者A

※でんぷん価は同等

(3) リン酸減肥+石灰増肥の効果確認



※でんぷん価は同等  
※石灰資材は「畑のカルシウム」を使用

(4) 新品種導入試験

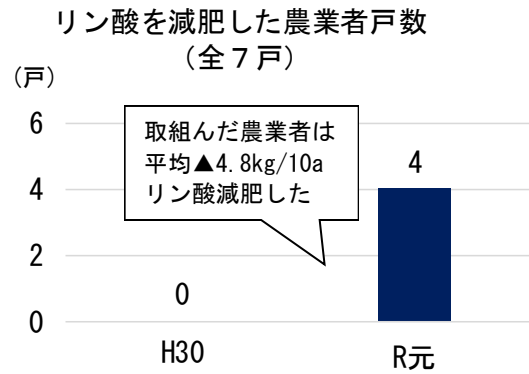
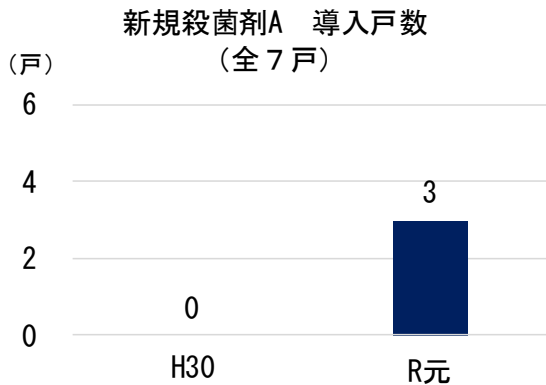
|      | 上いも収量 (kg/10a) | 標準比 (%) | ライマン価 (%) |
|------|----------------|---------|-----------|
| 新品種  | 4,617          | 100     | 15.3      |
| トヨシロ | 5,083          | 110     | 17.6      |

<農業者の声>

- 適正施肥に取り組んだことにより、10a収量が過去最高となった!
- 新品種の可能性は見いだせなかったが、トヨシロでも十分穫れることがわかった!

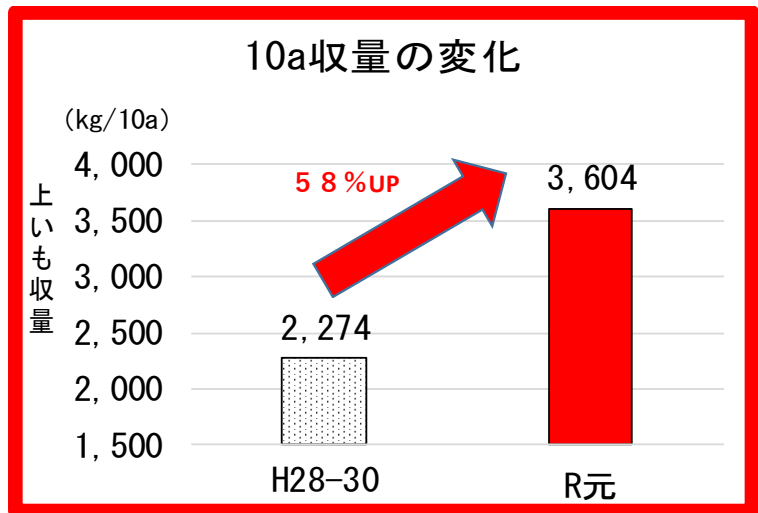


### 3 普及活動の成果



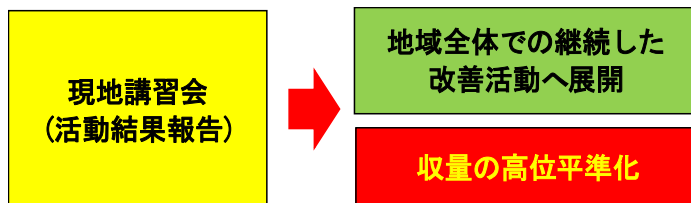
<活動成果>

農業者の取組変化によりR元年産の野幌地区の10a収量が過去3年の平均収量を大きく上回りました。



### 4 今後の普及活動

(1) 取組成果の波及 (下図)



(2) 残された課題への対応

- 枯れ上がりが早いことへの対策 (施肥量見直し、追肥等)
- 防除体系の見直しによる防除コストの削減
- 雑草対策